

米国ニューヨーク補習授業校幼児部における 日本語・日本文化教育の現状と課題 (I)

ブラック妹尾祐美子 (ニューヨーク補習授業校ロングアイランド校)・北川歳昭 (教育心理学科)

**A report about Japanese teaching method for language and culture in
early childhood education at Japanese Weekend School in New York (I)**

Yumiko SENOO-BLACK (Japanese Weekend School in New York) and
Toshiaki KITAGAWA (Department of Educational Psychology)

抄 録

多民族、多文化国家であるアメリカの大都市ニューヨークに設置されている日本語補習授業校幼児部(幼稚園)担任の立場から、第二言語としての日本語学習、地域特性や環境特性による日本文化の浸透の難しさ、異文化の中での日本の幼児教育について、事例を含めて紹介する。幼児期に第二言語として日本語を学ぶ上では、言語学習としての言葉そのものを学ぶことよりも体験を通して学ぶことが必要とされる。日本語の文字だけでなく第一言語の文字を理解できない幼児は、実際の体験により、言語を理解し学習が意欲づけられる。また、言葉と実際の意味との取り違いや誤解が生じる過程には、異文化間の誤解が生じていることが多々ある。言語学習は、一概に言葉のみの学習ではなく、その言葉の文化に基づいた学習でなければ意味を成さない。このことは、日本国内での第二言語としての外国語学習や教育も同様であろう。本稿では、日本語補習授業校の概要を報告した上で、海外での日本の幼児教育を基本とするクラス運営の中での取り組みを具体的に提示する。今後、ますます国際化してくる日本国内での異文化交流、異文化学習に携わる関係者への一助となることを期待している。

キーワード：異文化間日本語幼児教育、第二言語、日本語補習授業校、地域特性、日本文化